

エラストマー・新開発素材と カラーデザイン

「軟らかいプラスチック」といわれるエラストマーは、常温でもゴム状の弾力性をもつ物質で、カメラの手が触れる部分、時計バンド、マウスシート、幼児用の食器の底部、自動車部品など利用範囲は広がっています。おもに材料着色や転写による着色、色彩や幾何模様などのパターン加工がよく行われています。新開発素材には、テニスラケットやゴルフクラブなどに使われているカーボンファイバー（炭素繊維）、ガラスを繊維状にしたグラスファイバーなどがあります。



【左から順に】EVA樹脂を使った携帯用スリッパ「pop up slipper」、シリコンゴム製のサプリメントケース「pecon!」（以上、アッシュコンセプトの製品）、ベビービョルンの離乳食器



*エラストマー [elastomer] は弾力のある [elastic]、重合体 [polymer] を組み合わせた造語。ゴムの弾性とプラスチックの可塑性をあわせもつ素材で、ゴムもエラストマーの一種といえる。

Column

プロダクトデザイナー・川崎和男氏の真骨頂

サラ・ベイリン元副大統領候補のメガネをデザインしたことで世界中にその名がとどろいた川崎和男氏のモノ作り魂を拝見。「メガネのデザインというと、普通は形だけのデザイン、と考えましょう。でも僕は、独自の計算式・数式を用いて部品数を決定したり、新素材を開発する、というところから行います。(中略)素材に関しては、肌に一番やさしくて金属アレルギーを起こさない、とか、紫外線や整髪料の影響を受けない、といった素材を科学的に開発していきます。

(中略)シリコン系のもは、どんなにそこどころに紫外線のUVクリームを塗っていても、そこは完全にレンズ効果となってしまって紫外線をうけてしまいます。将来、人によってはシミになる可能性があります。それに、シリコン系というのは、生体との適合性がないことがわかってきました。人間の皮膚には不適性です。僕のメガネの場合は、シリコン系の素材を使ってい



ません。高密度なポリマーで作るエラストマーというエンジニアリングプラスチックであり、それを耳あての部分などに応用しているんです。これは、肌とのかけ心地が非常に快適で、整髪料や紫外線に対する、経年変化はありません。

(中略)形や値段ばかり意識せず、そのような視点で日本人もメガネを選んでくれたらいいと思います。」(川崎和男 artgene.blog より)

http://artgene.blog.ocn.ne.jp/kawasaki/2008/12/kazuokawasaki3_4db4.html